

国土調査課

保存用

地域開発委員会

土地分類基本調査

若 松

5万分の1

国土調査

福島県

1972

会 津 開 発 地 域

土地分類基本調査

若 松

5万分の1

国 土 調 査

福 島 県

1 9 7 2

序 文

昭和44年に策定された新全国総合開発計画においては、人間と自然の調和をはかりながら、国土を有効に活用し、開発可能地域を全国に拡大し、地域の特性に応じた開発を推進するとともに、国民生活の社会環境を整備保全するなど基本的目標がうたわれています。

本県としては、このような観点に立脚し、広大な未開発地と豊富な資源の賦存する会津地域に大規模林業圏開発計画を策定し、破壊されずに残っている自然と調和を保ちつつ、森林、観光、レクリエーション基地の建設、道路網の整備等あらゆる角度から総合的に調査し、地域の特性を生かした開発を意欲的に進めることになりました。

したがって、このプロジェクト単位に土地利用計画を策定するため、地形、地質、土壌、気象等の自然条件、災害および土地保全、土地の所有形態及び開発を規制する因子等に関し、総合的、科学的に調査をなし、その成果を有機的に組み合わせ参りたいと考え、開発地域土地分類基本調査を実施しております。

また、この調査は国土調査法第5条第4項による国土調査として指定をうけ、国土調査事業補助金によって福島県が事業主体となって実施するものでありますが、昭和46年度は1/5万地形図「猪苗代湖」成果の刊行をみ、ひきつづき昭和47年度は、1/5万地形図「若松」図葉の成果をここに完成することになった次第であります。なお、この成果が一般的行政上に利用されることは勿論、各種開発の基礎資料として広く活用されることを希望するとともに資料の収集、調査等にご協力をいただきました宮城教育大学、福島大学はじめ各関係者に対し深く謝意を表する次第であります。

福島県農地林務部長

村 田 定 彦

調査担当者一覧表

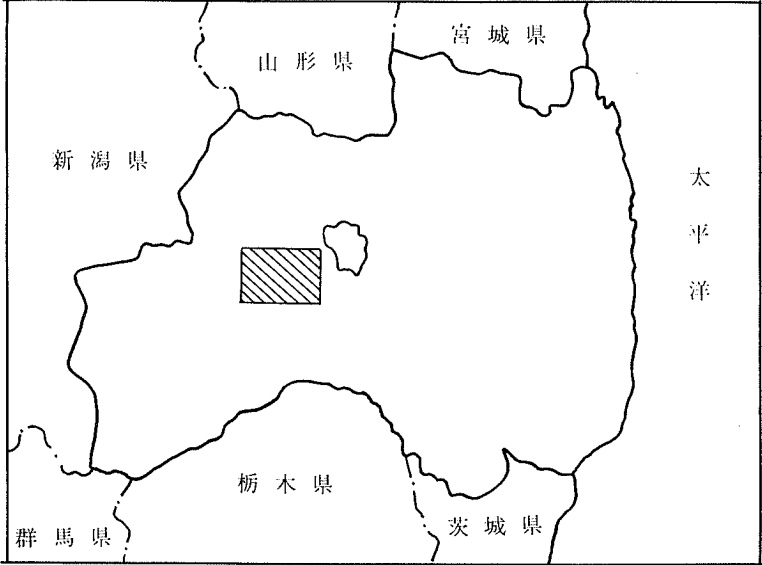
地形分類調査	宮城教育大学教授 田 辺 健 一
表層地質調査	理学博士 小 貫 義 男
土 壌 調 査	福島県農業試験場専門研究員 鈴 木 平 喜 福島県林業試験場主任研究員 平 川 昇
開発関連調査	
傾斜区分調査	
水系谷密度調査	宮城教育大学教授 田 辺 健 一
土地利用現況調査	
(耕地)	福島大学教育学部 教授 大 沢 貞一郎
(林地)	福島県農地林務部 農地管理課主事 渡 辺 三 郎
開発規制調査	福島県農地林務部 農地管理課主事 渡 辺 三 郎

目 次

總 論	1
各 論	
I 地形分類図	17
II 表層地質図	21
III 土 壤 図	31
IV 傾斜区分図	35
V 水系, 谷密度図	36
VI 開発規制図	37
VII 土地利用現況図	38



位 置 図



総

論

1 位置・行政区画

「若松」図葉は猪苗代湖の西に位置し、経緯度は東経 $139^{\circ}45' \sim 140^{\circ}0'$ 、北緯 $37^{\circ}30' \sim 37^{\circ}40'$ の範囲である。本図葉内の行政区画（第1図）は、会津若松市、北会津郡北会津村、大沼郡新鶴村、会津高田町、本郷町、河沼郡柳津町、南会津郡下郷町の1市4町2村からなっている。

なお、大沼郡新鶴村、河沼郡柳津町、南会津郡下郷町については、図葉内にしめる面積が小さく、また、山間地が多いため、以下説明を省略する。

なお、本図葉内の市町村合併状況については、下記のとおりである。（第2図）

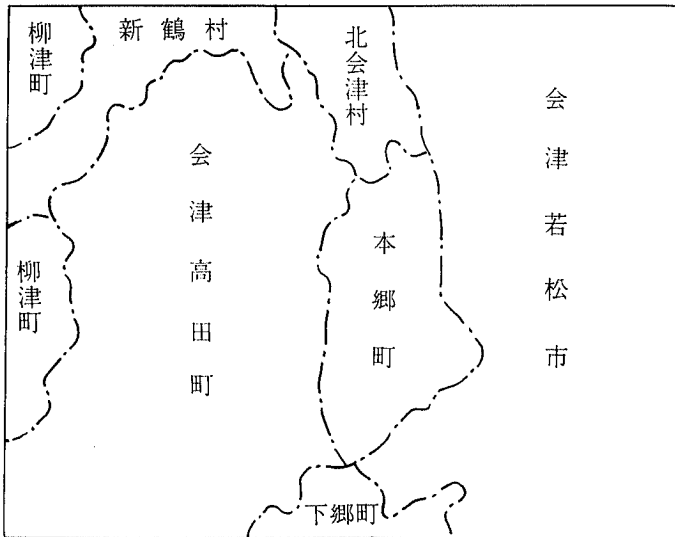
○会津若松市

明治32年4月1日 北会津郡若松町を若松市とする。

昭和30年1月1日 若松市を会津若松市とする。

昭和30年1月1日 神指村、門田村、大戸村、東山村、湊村、一箕村を編入。

第1図 行政区画



市町村界 ———

○北会津村

昭和31年5月1日 北会津郡荒館村及び川南村合併，北会津村を新設。

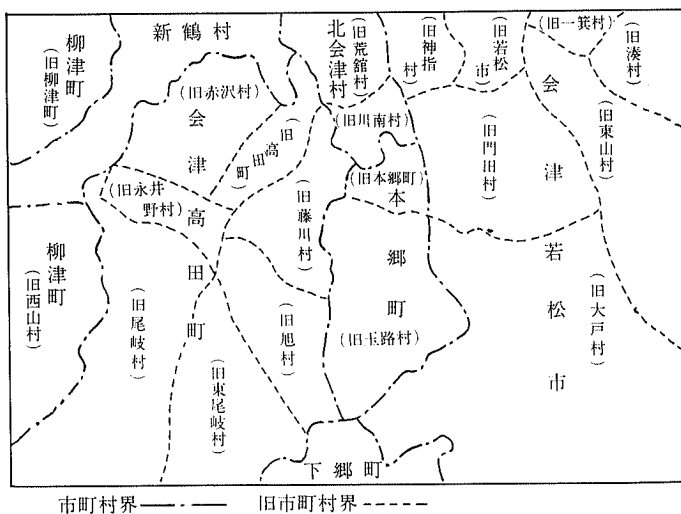
○会津高田町

昭和30年3月31日 大沼郡高田町，赤沢村，永井野村，尾岐村，東尾岐村，旭村及び藤川村合併，会津高田町を新設。

○本郷町

昭和29年11月1日 大沼郡本郷町及び玉路村合併，本郷町を新設。

第2図 旧町村界



2 人口動態

本図葉に關係する市町村の人口移動について，昭和40年と昭和45年を比較してみると第1表のとおりであり，会津高田町が8.6%，本郷町が7.5%，北会津村が4.2%の減少率をしめしている。また，会津若松市を除く2町1村では，県の人口減少率1.9%よりもうまわっており，その要因は未成年者の県外就職等によるもの

とうかがいる。また、世帯数については、各市町村とも増加しており、特に会津若松市の場合は11.2%の増加率をしめすなど、いわゆる、核家族化の傾向がみられる。

次に昭和45年の産業別人口構成（第3図）をみると、会津若松市を除いては各町村とも第1次産業の就業人口が多く、特に会津高田町、北会津村は総数の半数以上をしめすなど、いわゆる農業を主とする地域である。また、第2次産業でもっとも多いのが製造業、第3次産業が卸売・小売業である。

また、昭和40年対比の人口推移をみると第1次産業の就業人口が減少し、第2次、第3次産業の就業人口は増加をなしている。これは、日本経済の高度成長に伴う産業構造の変化によるものと思われる。（第2表）

第1表 人口動態

市町村	昭和40年国勢調査		昭和45年国勢調査		増減数
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
会津若松市	24,623	102,239	27,744	104,065	3,121
北会津村	1,351	7,583	1,393	7,265	42
会津高田町	3,913	19,681	3,935	17,979	22
本郷町	1,609	7,637	1,639	7,067	30
計	31,496	137,140	34,711	136,376	3,215
福島県	424,249	1,983,754	459,932	1,946,077	35,683

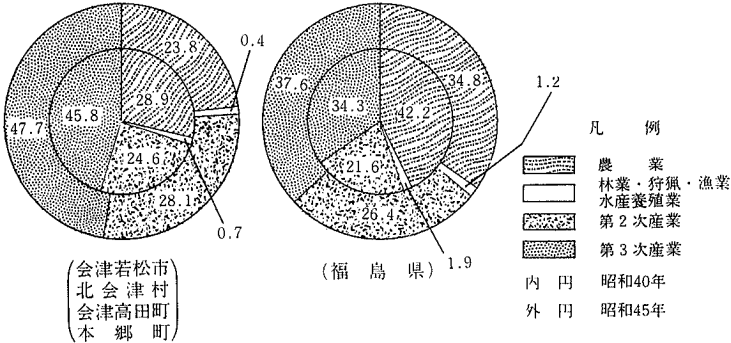
市町村	増減数	増減率		昭和45年の人口密度 (1km ² 当)	面積 (km ²)
	人口	世帯数	人口		
会津若松市	1,826	11.2%	1.8%	363.5	286.26
北会津村	△ 318	3.0	△ 4.2	258.0	28.16
会津高田町	△ 1,702	0.6	△ 8.6	92.4	194.64
本郷町	△ 570	1.8	△ 7.5	176.1	40.13
計	△ 764	9.3	△ 0.6	248.3	549.19
福島県	△ 37,677	7.8	△ 1.9	141.2	13,781.08

第 2 表 産 業 別 就 業 人 口 (15才以上)

市 町 村	45 年 度			40 年 度			増 減 数			増 減 率						
	計			計			計			計						
	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次				
会津若松市	52,769	7,693	16,165	28,911	47,099	8,654	13,000	25,445	5,670	△ 961	△ 3,165	3,466	10.7 [△]	11.1	19.6	12.0
北会津村	4,191	2,918	481	792	4,073	3,108	395	570	118	△ 190	86	222	2.8 [△]	6.1	17.9	28.0
会津高田町	9,588	5,064	1,833	2,691	9,517	5,746	1,329	2,442	71	△ 682	504	249	0.7 [△]	11.9	27.5	9.3
本郷町	3,663	1,327	1,230	1,106	3,671	1,561	1,091	1,019	△ 8	△ 234	139	87	△ 0.2 [△]	15.0	11.3	7.9
計	70,211	17,002	19,709	33,500	64,360	19,069	15,815	29,476	5,851 [△]	2,067	3,894	4,024	8.3 [△]	10.8	19.8	12.0
福島県	991,761	357,362	261,581	372,818	922,342	406,859	199,529	315,954	69,419 [△]	49,497	62,052	56,864	7.0 [△]	12.2	23.7	15.3

資料, 国勢調査

第3図 産業別人口構成の推移



3 地域の特性

自然的条件

(1) 地 形

本図幅の東部から南部にかけては奥羽山地で西部には越後山脈がある。会津盆地は両山地の間の断層盆地で、東縁に吹矢山断層崖、西縁に明神ヶ岳断層崖がある。両断層崖の南への延長方向に大川および宮川の谷があり、この間の山地は北に向かって急激に高度を減じ、盆地床下に埋没している。従って、図幅の南端に、大戸嶽、鳥帽子岳、滝沢山などの1000m級の山地が並んでいる。

会津盆地は、大川・宮川などの堆積によって作られたもので、大川の扇状地が最も広く、北東部に温川扇状地が若松の市街地をのせ、南西部は宮川の扇状地で、末端に会津高田の町が位置する。

盆地東縁の山地には、流紋岩流の台地の背中灸山 800mがあり、猫苗代湖盆との分水界となっている。

(2) 表層地質

会津盆地の盆地面の高度は 170～ 220 m であるが、本図葉内のその高度は 200～

220 mである。盆地の表層部には沖積層が広く分布し、本図葉内では北部の最厚部において 115 m内外の厚さを有する。沖積層の下位には洪積世のCDtr（七折坂層）が発達するが、その下限までの深さは北部では標高 0 mである。したがって地表から沖積層を含めての深さは 200 mで、CDtr のみの厚さは85 mと推定される。

山地の地域においては半固結・固結・火山性堆積物および火成岩類が分布している。これらは時代的には古生代（？）から洪積世にわたるのであるが、新第三紀～洪積世の堆積物および火山岩類が広く発達している。古生層（？）（Gsh、大戸層）および中生代に進入した花崗岩類は、本図葉の東南部および西南部の2地域の小範囲に分布し、新第三紀層の基盤岩を構成するが、それらの分布は地質構造の解析に重要である。

新第三紀～洪積世にわたる堆積物は、グリーンタフ地域の火山活動のはげしかった時代の堆積物である。火山活動の影響によって各堆積物の層相も種々かわっているが、全体を通じて堆積物は上位・下位に大別される。すなわち下位の堆積物は新第三紀中新世の海成層で、主として緑色凝灰岩で特徴づけられ、安山岩および流紋岩を夾在するが、上位の堆積物は新第三紀中新世～第四紀洪積世にわたる陸成層で、亜炭を夾在し、石英安山岩質凝灰岩などが発達している。

これらの新第三紀～洪積世にわたる堆積層の地質構造は局部的に複雑なところもあるが、全体として東・南・西部の山地から盆地側に向かって傾斜し、本図葉内では北に開いた半盆状構造を呈する。なお盆地の東・西縁辺部には NNE～SSW 方向に走る東・西2条の断層が存在するものと推定され、これらは山地部まで延びている。両断層間は中央部が落ちこんだ地溝状を呈するが、断層の活動は会津盆地形成の最後の時期、すなわち洪積層堆積後、沖積層堆積前と考えられる。

堆積層・火成活動の概要は次表のとおりである。

時代			堆積層			火成活動	
第四紀	沖積世	A	陸成層	A		Ab (4) Dc	
	洪積世	D		Gsm			
As							
CDtr							
新第三紀	Tn			海成層	Csm		Ms
			Tb				
			Csmr				
			GTr				
			GTb				
			Dtr (1)		Dtr (2)		
			Csm				
中生代	M				Gr		
古生代 (?)	P (?)		Gsh				

註 記号は地質図の凡例に同じ。

(3) 気象

この地方の気候はひとくちについて日本海側気候に属すると言えるが、盆地特有の内陸性気候もまた顕著である。

年間の気温傾向を見ると、まず冬期は寒冷多湿で、同緯度にある福島市や新潟市と比較すると、前者より2℃、後者よりは3℃も低い。これは海拔高度の違いだけでなく、明らかに内陸性の特長が加わっているものと見たい。しかし会津地方の中では、気温は最も高い方だと言えよう。

一方盛夏期には福島・郡山市などと同様最高気温は連日30℃を越え、35℃以上という異常高温すら現測することもしばしばある。これは盆地地形によく起るフェン現象

第 3 表 気 候 表

(1954~1970年)

若松測候所

北緯 37°29'
東経 139°55'
海拔 212.0m

月	最高気温(平均)		最低気温(平均)		平均気温		最高極値		最低極値		最高気温25°C以上の日数		最低気温0°C以下の日数		1日以上の降水量		1mm以上の降水日数		10mm以上の降水日数		30mm以上の降水日数		最深積雪極値		積雪日数		降雪の最大値		日照		風速	
	°C	°C	°C	°C	°C	°C	日	日	°C	°C	°C	日	日	mm	mm	日	日	日	日	日	日	日	日	cm	日	cm	時間	時間	m/s	%		
1	2.4	-4.5	-1.2	11.8	-14.4	—	28.8	145.8	44.5	19.1	5.1	0.4	101	26.8	63	84.2	2.2	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
2	3.7	-4.1	-0.5	15.9	-13.3	—	26.0	92.0	24.5	15.5	2.9	—	76	25.1	37	114.0	2.5	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
3	7.5	-1.3	2.6	21.3	-10.2	—	20.2	94.3	57.0	13.4	2.6	0.3	64	15.6	42	153.1	2.5	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
4	16.5	4.4	9.9	28.7	-4.6	1.1	4.9	67.4	29.0	9.8	2.1	—	20	1.1	17	188.0	2.6	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
5	22.2	9.7	15.6	32.1	-1.2	8.9	0.1	75.7	46.8	9.8	2.6	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6	24.7	15.0	19.3	32.5	7.2	15.6	—	116.3	80.9	12.2	3.9	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
7	28.5	19.5	23.4	36.2	9.3	25.0	—	203.9	142.5	13.6	6.1	2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8	30.2	20.3	24.5	36.9	10.3	29.1	—	115.7	119.7	9.8	3.9	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
9	25.3	15.7	19.8	34.9	5.3	15.9	—	139.3	108.7	11.8	4.4	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
10	18.4	8.9	13.0	27.8	-0.9	0.6	0.1	100.7	75.9	10.8	3.2	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11	12.2	2.8	6.9	24.5	-4.2	—	6.7	70.6	40.5	10.6	2.1	0.1	35	1.1	30	108.3	1.9	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
12	5.6	-1.3	1.8	16.6	-14.4	—	20.3	121.2	48.4	16.3	3.5	0.5	73	13.7	59	78.7	1.9	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
年	16.4	7.1	11.2	36.9	-14.4	96.2	107.2	1342.9	142.5	152.6	42.4	6.8	101	83.4	63	1743.6	2.0	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

平均風速=1961~1970年

資料, 福島地方気象台提供

象のもたらすものと考えたい。

降水量は冬期と夏期にピークがあり、一応日本海側気候の特長を見せてはいるが、特異なことは新潟や只見などが1月ごろに年間のピークがあるのに対してこの地方のピークは7月に現われることである。これは梅雨末期に大雨の降りやすい特質を示しているためである。

冬期の天気は北西季節風に支配され、平均1週間に5日は降雪がある。しかしそれでも会津地方では、降雪日はもとより積雪量についても最も少ない地域と言える。またこの地方の秋は朝方輻射霧のかかることが多く、特に会津若松市は全国の都市中、最も霧の多いことで名が通っている。

季節関係では、霜が10月27日～5月6日、雪は11月18日～4月11日、積雪は12月3日～4月1日、根雪は12月28日～2月28日が平年の初終日となっている。

4 主要産業の概要

(1) 農 業

図葉内の旧東山村外13町村の昭和45年農林業センサスによる農家数は、5,197戸である。この中、もっとも戸数の多いのは旧門田村の691戸であり、全体の約13%をしめしており、平均農家数では346戸である。また、各旧町村とも共通的にいえることは、専業農家の減少と兼業農家の増加であるが、これは他の地域にもみられる現象である。

総世帯員数は28,376人で、もっとも多いのが旧門田村の3,871人であり、全体の7%をしめしており、平均世帯員数は1,891人となっている。また、男女別世帯員数をみると男が13,548人に対し女が8.6%多くなっている。更に年令別世帯員数をみると0～14才がもっとも多く全体の22.8%をしめし、次いで60才以上17.1%、40～49才14.4%、30～39才12.8%、50～59才11.2%の順の構成比率をなしており、農業労働力の老令化及び婦女子化の傾向がみうけられる。(第4表参照)

次に経営耕地を規模別にみると総農家数5,197戸の中もっとも多いのが、1.0～1.5haの規模の農家であり、全体の16%をしめ、ついで1.5～2.0ha及び0.3ha～

0.5haの農家がそれぞれ7%となっている。また、旧荒館村、旧川南村には3.0～5.0haの規模の農家が割合に多い。

経営耕地総面積は6,556haである。このうち田の面積が4,672haで全体の71.3%、畑の面積が24.7%、果樹園の面積が4%の構成比となっており、この地域は、いわゆる米の生産地である。また、旧門田村東部と会津高田町西部では柿の栽培が行なわれているほか、他の地域も含めて一般的に、だいち、ばれいしょ、だいこん、しいたけ等の栽培がみられる。(第5表参照)

第4表 専業兼業別農家数

市町村	昭和40年						
	総農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	世帯員数		
					男	女	計
会津若松市							
旧東山村	172	3	78	91	555	610	1,165
// 大戸村	387	50	161	176	1,216	1,289	2,505
// 門田村	686	278	132	276	2,032	2,240	4,272
計(旧市村)	1,245	331	371	543	3,803	4,139	7,942
北会津村							
旧荒館村	660	380	204	76	1,901	2,119	4,020
// 川南村	382	177	134	71	1,151	1,287	2,438
計(旧村)	1,042	557	338	147	3,052	3,406	6,458
会津高田町							
旧高田町	504	84	169	251	1,299	1,467	2,766
// 赤沢村	380	84	184	112	1,092	1,139	2,231
// 永井野村	351	106	152	93	1,014	1,104	2,118
// 尾岐村	280	25	104	151	801	874	1,675
// 東尾岐村	155	3	68	84	456	462	918
// 旭村	355	97	177	81	1,000	1,158	2,158
// 藤川村	396	131	162	103	1,107	1,235	2,342
計(旧町村)	2,421	530	1,016	875	6,769	7,439	14,208
本郷町							
旧本郷町	219	38	87	94	583	686	1,269
// 玉路村	363	99	182	82	1,091	1,094	2,185
計(旧町村)	582	137	269	176	1,674	1,780	3,454

資料、農林業センサス

養蚕業はあまり盛んでないが、会津高田町、新鶴村等で行なわれている。また、ブロイラー採卵鶏・豚・肉用牛・乳用牛等の畜産業も行なわれている。

また、大川ライン沿えには県営会津南部ほ場整備事業が行なわれ、北会津地区（旧川南村附近）が昭和46年に完成したほか、北会津第二地区（旧荒館村附近）が48年度、北会津第二の二地区（鶴沼川より旧荒館村）及び会津本郷高田第一地区（旧玉路村、旧藤川村の一部）が49年度、高田第二地区（旧藤川村、宮川附近）が51年度に完成の予定である。

総 家 数	専 業 農 家 数	昭和45年		出稼者 の い る 農 家 数	世帯員数		
		第1種 兼 業 農 家 数	第2種 兼 業 農 家 数		男	女	計
165	5	61	99	23	476	532	1,008
375	28	116	231	61	1,047	1,112	2,159
691	210	246	235	12	1,846	2,025	3,871
1,231	243	423	565	96	3,369	3,669	7,038
656	177	382	97	15	1,743	1,891	3,634
386	72	220	94	8	1,063	1,189	2,252
1,042	249	602	191	23	2,806	3,080	5,886
485	48	132	305	40	1,125	1,284	2,409
374	36	211	127	78	944	1,025	1,969
343	101	141	101	68	907	958	1,865
272	15	79	178	101	684	745	1,429
147	3	55	89	85	380	379	759
351	54	216	81	56	876	1,030	1,906
394	91	183	120	50	1,004	1,084	2,088
2,366	348	1,017	1,001	478	5,920	6,505	12,425
212	13	82	117	18	537	596	1,133
346	32	196	118	58	916	978	1,894
558	45	278	235	76	1,453	1,574	3,027

第5表 経営耕地面積

単位=ha

市町村	合計	経営耕地面積			1戸当 面積 (a)	田率 (%)	樹園地 率 (%)	畑率 (%)
		田	樹園地	畑				
会津若松市								
(旧 東山村)	148	101	8	39	90	68.2	5.4	26.4
(〃 大戸村)	353	212	29	113	94	59.9	8.1	32.0
(〃 門田村)	858	601	52	206	124	70.0	6.0	24.0
合計	1,359	914	89	358	109	67.3	6.4	26.3
会津高田町								
(旧 高田町)	391	308	11	72	81	78.7	2.8	18.5
(〃 赤沢村)	501	361	27	114	134	72.0	5.4	22.6
(〃 永井野村)	423	242	47	134	123	57.2	11.1	31.7
(〃 尾岐村)	213	92	15	106	78	43.5	7.0	49.5
(〃 東尾岐村)	109	53	5	51	74	48.6	4.5	46.9
(〃 旭 村)	428	272	22	134	122	63.6	5.1	31.3
(〃 藤川村)	561	444	12	105	142	79.1	2.1	18.8
合計	2,626	1,772	139	716	111	67.5	5.3	27.2
北会津村								
(旧 荒館村)	1,202	903	5	295	182	75.1	0.4	24.5
(〃 川南村)	727	584	18	125	188	80.3	2.5	17.2
合計	1,929	1,487	23	420	185	77.1	1.2	21.7
本郷町								
(旧 本郷町)	211	181	0	30	100	85.7	0	14.3
(〃 玉路村)	431	318	10	103	124	73.9	2.3	23.8
合計	642	499	10	133	115	77.7	1.6	20.7

資料, 1970年農林業センサス

(2) 商 業

昭和47年商業統計調査結果によると会津高田町の商店数は 344店、常時従業者数は 840人、年間販売額は 276,062万円である。産業分類では卸売業が21店、小売業が 323店であり、主なる業種としては飲食料品店等があげられる。

本郷町の商店数は 132店、常時従業者数は 312人、年間販売額は 123,719万円である。産業分類では卸売業が18店、小売業が 114店である。主なる業種は会津高田町と同様である。

会津若松市の商店数は 2,097店、常時従業者数は10,376人、年間販売額は7,069,79万円である。産業分類では卸売業が 352 店で主なる業種は 飲食料品、家具、建具、じゅう器店である。(旧大戸村、旧門田村、旧東山村等については資料が得られないため説明を省略した。)

北会津村の商店数は69戸、常時従業者数は 112人、年間販売額は25,623万円である。産業分類では小売業が殆んどであり、主なる業種としては飲食料品等があげられる。

(3) 工 業

昭和45年工業統計調査結果によると、会津若松市の事業所数は 1,463、従業者数は13,632人、製造品出荷額は 4,528,729 万円である。このうち非鉄金属製造業が 1,631,363 万円で第1位、次に電気、機械器具製造業が 800,975 万円である。また、事業所でもっとも多いのは、木材、木製品製造業等である。なお同市は古い伝統をもつ会津漆器の産地でもある。

北会津村の事業所数は 21、従業者数は 386人、製造品出荷額は 86,407万円である。会津高田町は事業所数が 58、従業者数が 706人、製造品出荷額 110,266万円、本郷町は事業所数が 46、従業者数 900人、製造品出荷額が、 103,059万円である。同町の主なる産業は陶業で 300年の伝統をもつ「本郷焼」の産地である。

5 開発の現況と方向

(1) 道路・鉄道

本図葉内の主要道路としては、図葉の北部にいわき市～新潟市間を走る49号線と柏崎市～会津若松市間を走る 252号線および 中央を南北に宇都宮市～米沢市間を走る 121号線の国道がある。

県道としては、二岐～会津若松線、会津若松～裏磐梯線、会津高田～柳津線、会津高田～本郷線、湯ノ上～会津高田線、会津坂下～本郷線、下郷～本郷線等がある。

主要地方道としては会津高田～三寄線、会津若松～伊南線、会津坂下～会津高田線等があり交通の便もよい。鉄道は郡山市～新潟市間を走る磐梯西線と会津若松市～小出間を走る只見線および会津若松市～会津滝ノ原間を走る会津線が走っている。各線とも急行数本が走っており、沿線市町村の経済的発展と観光客の誘致などに寄与するところ大きい。

(2) 水 資 源

本図葉内には宮川、東尾岐川、氷玉川、湯川、大川等の河川があり、したがって水資源も豊富である。本郷町、会津高田町、北会津村地内の各所には自然の湧水があり農業用水として利用されている。

東山温泉の南の蛇沢の水源池は、会津若松市の上水道として、また、芦ノ牧温泉一帯の飲雑用水は、大川から揚水し簡易水道として配水されている。宮川、逆瀬川、氷玉川の各上流部には宮川、二岐、栲沢の防災ダムが建設されている。宮川ダムの上流の下谷ヶ地内には新宮川ダム、また、多目的ダムとして国営の大川ダム、県営の東山ダムが計画されている。

(3) 観 光

本図葉の北部の会津若松市は観光都市として最近特に脚光を帯びている。芦名直盛公が創立した鶴ヶ城跡は、昭和9年12月28日文部省から史跡として指定されている。また、戊辰の役に殉死した白虎隊自刃の地である飯盛山、その他脊中灸山、東山温泉、芦ノ牧温泉等があり観光客が絶えない。

大川ライン左岸北部の地域にある北会津村は、阿賀川の清流沿岸を区域とする奇岩怪石が多く見晴らしがよい。また、大川ラインは県立公園として昭和28年3月指定をうけ、また、春の彼岸に笛太鼓で戸ごとに踊り豊作を祈る彼岸獅子等が有名で

ある。また、会津平野の西南に位し会津若松市に約11キロの位置にある会津高田町には伊佐須美神社がある。この神社のお田植祭りは県下でも有名であり、農村から集まる数万人の人数でにぎわいをみせている。本図葉の中央に位置する本郷町は県立公園大川ラインの地域にあり、大川に沿って小谷温泉、芦ノ牧温泉、湯ノ上温泉にいたる渓谷は絶景である。

(4) 開発の方向

(資料・農林課提供)

本地域は会津地域の中央部を占め、会津29市町村とともに大規模林業圏開発調査圏域として林野庁の指定をうけ、林業を中心とした総合開発事業を計画しており、昭和49年度より大規模林道を中心に一部着工の見通しとなっている。この地域は比較的平坦部に近接し、地理的条件も恵まれていていることから、大きな開発効果が期待できる。この地域における主な開発事業は次のとおりである。

会津若松市

大規模林業圏開発事業

(1) 地域開発の基幹林道の整備

中核林道（一渡戸，上青線） 11.6km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 1,792ha

特用樹林等 100ha

林野野生資源 200ha

緑化木生産団地 120ha

(3) 森林レクリエーション，エリアの整備

東山・布引高原地区（会津若松市，河東村，猪苗代町）

林間歩道，駐車場，休養施設，スポーツ施設，森林風致施業，管理施設

本郷町

(1) 地域開発の基幹林道の整備

中核林道（一渡戸，上青線） 6.1km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林	410ha
林野野生資源（山菜、木の実、きのこ、薬用草木）	700ha

(3) 森林レクリエーション，エリアの整備

栃沢・大内地区（本郷町，下郷町，会津若松市）

林間歩道，駐車場，休養施設，スポーツ施設，森林風致施業，管理施設

新鶴村

(1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道（中央） 7.5km（柳津町との境界）

中核林道（上平，本名線） 2.0km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 140ha

特用樹林等 7 ha

密源林 2 ha

林野野生資源 858ha

(3) 森林レクリエーション・エリアの整備

博士，柳津地区（新鶴村，柳津町，会津高田町，昭和村）

林間歩道，駐車場，休養施設，スポーツ施設・森林風致施業，管理施設

会津高田町

(1) 地域開発の基幹林道の整備

大規模林道（中央） 13.2km

中核林道（一渡戸，上胃線） 7.9km

(2) 大規模生産団地

大規模計画造林 2,345ha

密源林 60ha

林野野生資源 549ha

(3) 森林レクリエーション，エリアの整備

博士，柳津地区（同上） （福島県農地管理課 渡辺三郎）

各 論

I 地形分類図

本図葉の大部分が会津盆地南半にあたり、東部、南部、西部は奥羽脊梁山地に属する山地で、北流する河川が侵蝕し、盆地底へ扇状地を張り出している。東北隅に猪苗代盆地の西縁が僅かに存在する。

地形区は大区分で4、細分すると18となる。

I 奥羽脊梁山地

I d 脊中灸山山地

I f 脊中灸山台地

I g 吹矢山山地

I h 烏帽子岳山地

V 越後山地

V a 明神ヶ嶽山地

IV 会津盆地系

IV a 湯川段丘

IV b 湯川扇状地

IV c 御山複合扇状地

IV d 大川段丘

IV e 大川扇状地

IV f 氷玉川扇状地

IV g 袖山砂礫台地

IV h 東尾岐川段丘

IV i 宮川段丘

IV j 宮川扇状地

IV k 赤沢川複合扇状地

IV l 逆瀬川段丘

II 猪苗代湖系

L a 赤井低地

本図葉全体が阿賀野川水系の流域で、主要河川の大川・鶴沼川とその上流部の宮川によって大きく3分される。東部が脊中灸山地 Id, 脊中灸山台地 If, 吹矢山山地 Igで、北半は高度 700~800m 程度の中起伏山地であるが、南するに従がい高度も起伏も増し、大起伏山地となり、大戸嶽では 1415.8m に達する。脊中灸山山地と吹矢山山地との間は湯川の深い侵蝕谷で切られる。脊中灸山山地は山頂部に流紋岩流の被覆があって、なだらかな山容を示す脊中灸山台地 If となるが、その周辺には 700m 前後の平坦な山稜が多く、流紋岩流の流出前の山頂が、流紋岩流が侵蝕された結果として、露出したものと解される。この山頂高度は湯川の谷の西の吹矢山山地にも処々に見られる。吹矢山山地の中央部には大規模な山崩れ、地入り地形が、大巢子、黒森付近に存在する。

脊中灸山山地と吹矢山山地の西縁は、吹矢山断層崖で会津盆地床に面している。断層崖の方向は北々東・南々西で、比高 200m 前後の前山をもち、階段断層崖をなしている。湯川の扇状地 IVb が大きく西北に張り出していて、若松市街をのせているが、湯川以南には断層崖の必従谷による小扇状地が並んでいる。これらの扇状地は上・中・下の3段に分けられるが、下位面は著しく発達が悪い。湯川扇状地では、西側の大川の扇状地 IVe に押されて北東方に僅かに発達するにすぎないし、御山複合扇状地 IVc の下位面は大川扇状地と湯川扇状地との間の湿地で、三角州状である。吹矢山断層崖斜面には典型的な山崩れ地形がみられる。

烏帽子岳山地は、大川と宮川にはさまれ、南部は烏帽子岳 1095.4m をはじめ、六石山 1019.1m、滝沢山 1002.9m と高いが、北するに次第に高度を低下し、北端は丘陵状となって盆地床に埋没する。並んで北流する氷玉川、藤川、館ノ川、東尾岐川の小河川で寸断される。扇状地および段丘は上位・中位は明瞭であるが、袖山砂礫台地 IVg では下位面が宮川扇状地 IVj と重なっており、氷玉川扇状地 IVf では大川扇状地 IVe と宮川扇状地との間の低湿地に移行する三角州状である。氷玉川、藤川、館ノ川の中上流部では、中位段丘面が谷底平野となっている。東尾岐川では下位段丘面が谷底平野となっている。各河川とも中流上部の谷壁に山崩れ、地入り地形が存在する。

西側の明神ヶ嶽山地 II は、越後山地 V に属し、中央部の明神ヶ嶽 1074.2 m より南はほぼ 1,000 m の高度を保つが、北半は次第に低下し、函葉北端で 400 ~ 500 m になる。東縁の北半は比高 200 m 程度の明神ヶ丘断層崖で盆地に面し、下部に赤沢川複合扇状地 IV k を発達させる。北部の逆瀬川上流には、明瞭な地之斜面をもたない大規模な地之の地形が存在する。また明神ヶ嶽東部と大向山 1043.5 m の南部、および海老山峠付近にも、かなり大規模な地之・山崩れ・土石流地形が見られる。

赤沢川複合扇状地 IV k は上位扇状地が堆積面で、中位扇状地面は北部を除けば上位面を浅く侵蝕した谷状で、さらにその下流に下位面に続く谷底面が侵蝕によって入ってきている。すなわち、中位面も下位面も発達が悪く、北部の中位面が三角州状であり、下位面は排水された湖底面状の湿地である。赤沢川複合扇状地上位面と宮川扇状地北岸上位面は、赤沢川の浅い谷で分けられるものの、明瞭な区別は行ない難い。宮川扇状地上位面の先端に中位面が発達するが、その先は氷玉川の下流の濁川と宮川の旧流路、あるいは大川の旧流路によって切断され、数米の崖をなして、現在は鶴沼川の後背湿地に面している。宮川扇状地下位面は、東尾岐川の合流する狭隘部から北々東に向かって宮川の流路の両岸に、合計約 1 km の幅で発達するが、右岸では洪水時の分流的形態で、上位・中位の扇面を侵蝕する浅い谷として分岐し、濁川の沖積面に達している。濁川と合流する辺りの宮川左岸から鶴沼川にかけて約 3 km ほど自然堤防があるが、耕地整理が施行されているので明確にはその形をつかめない。宮川の中流から上流にかけては上位と中位の段丘がよく発達し、下位も段丘となる。

盆地床を広く占める大川扇状地 IV e は、上述の各扇状地の下位面に相当する。農業構造改善事業による圃場整備が大規模に行なわれたため、新しい堆積地形の細かな起伏は見られないが、東側から盆地床に入る湯川の流路を北に圧迫し、西南から流入する宮川の流路を西北方に圧迫するなど、会津盆地南半の沖積低地の主力となっている。大川扇状地の上位面と中位面はすべて、吹矢山段丘山地と烏帽子岳山地の間の大川の谷底の段丘面としてしか存在しない。大川段丘 IV d は明瞭に上位・中位・下位に分けられ、それぞれ扇状地の上・中・下位に対比される。下位面は明か

に2段存在するが、小面積なので表示しなかった。また、上位段丘面に重合する扇状地が、南原・上田・小谷・上小監辺りに多くみられる。

なお、吹矢山断層崖南部から大川谷口右岸にかけて、山麓に小起伏の丘陵が存在し、礫層をのせる部分もある。小谷対岸の闇川南岸の段丘状高位平坦面に、高度においても、上位段丘面との比高においても対比できる。ほぼ同様の礫をのせる小起伏の丘陵が、盆地西側（図葉北端）逆瀬川の盆地への出口の南側にも存在する。（本図葉には一部が顔を出しているにすぎない。）侵蝕され、起伏もあるので、砂礫台地とはしないで、小起伏丘陵として表示した。

図葉東北隅の赤井低地 La は、猪苗代湖系の地形区で、上位扇状地と中位扇状地と三角州がみられる。

猪苗代湖系と会津盆地系とは、侵蝕、堆積の基準面が全く異なっているが、地形的に同一形態の扇状地が形成されたことは、学問的には甚だ興味ある現象である。

（宮城教育大学教授 田辺健一）

Ⅱ 表層地質図

Ⅱ・1 未固結堆積物

会津盆地および盆地をかこむ山麓部に分布し、沖積層に属する。本図葉内の盆地面は標高200～220mであるが、作井・電探等の資料から沖積層基底の等高線および地表から深度を推定して図示した。この基底の最深部は現在の大川の流路よりもさらに東側に位置し、北部においては地表から約115mである。

Ⅱ・1・1 砂・礫 sg

大川・鶴沼川・湯川等は河川改修により流路は限られているが、これらの河床堆積物を一括した。

Ⅱ・1・2 砂・礫・泥 sgm(1), sgm(2), gs

河川の氾濫原で、盆地内の最も低い平野部に属し、下位扇状地・三角州型堆積物で、主として砂・礫・泥等からなる。sgm(1), sgm(2)と区分したものは最も広く分布し、sgm(2)はsgm(1)よりも比高1～2m程度の微高地で、網状流の中洲型砂礫堆である。なお、gsは自然堤防で、礫・砂等からなる。現在盆地面は人為的に平坦化されているので、その区分は容易でないが、部落の発達するところの多くはsgm(2)である。

Ⅱ・1・3 礫・砂・泥 gsm(1), gsm(2)

盆地をかこむ山麓部の扇状地堆積物で、主として礫・砂・泥等からなる。これらは前記平野部の下位扇状地からみれば中位扇状地 gsm(1), 上位扇状地 gsm(2)に区分される。なお河川流域においては段丘堆積物となっている。

Ⅱ・1・4 岩屑 cl

未陶汰の角礫・砂・泥等の混合物からなり、崖錐堆積物として山麓各所に分布する。

Ⅱ・2 半固結堆積物

洪積世～中新世末期の堆積物で、地表に分布するほか、盆地内沖積層の下位にも分布する。

II・2・1 礫・砂・泥・火山灰 Gsm

西北部の根岸西北方、東部の上三寄北方に段丘堆積物を形成するが、解析が著るしい。

II・2・2 礫岩・石英安山岩質凝灰岩 CDtr (七折坂層)

西北丘陵地の東北部に分布し、大礫・中礫を主とする礫岩に、石英安山岩質凝灰岩をはさむものである。

II・2・3 礫岩・砂岩・泥岩・石英安山岩質凝灰岩 Csm (和泉層)

盆地の西北部および南部に分布し、礫岩・砂岩・泥岩等からなり、亜炭および石英安山岩質凝灰岩をはさむものである。

II・2・4 礫岩・砂岩・泥岩・流紋岩質凝灰岩 Csmr (藤峠層)

西北部に主として分布するほか、東北端部にも1部分布し、礫岩・礫質砂岩・泥岩等からなり、亜炭および流紋岩質凝灰岩をはさむ。

II・3 固結堆積物

新第三紀中新世および古生代(?)の堆積物で、盆地をかこむ山地に分布する。

II・3・1 礫岩・砂岩・泥岩 Cms (若林層)

主として西部に分布し、礫岩・砂岩・泥岩等からなる。

II・3・2 泥岩・砂岩 Ms (二ノ沢層・黒森層)

西部・南部・東部の各地に分布し、泥岩・砂岩の互層からなり、軟質である。

II・3・3 硬砂岩・粘板岩・ホルンフェルス Gsh (大戸層)

東南部の大戸嶽、西南部の宮川上流に分布し、主として硬砂岩・粘板岩からなるが、花崗岩の侵入によりホルンフェルス化すところもある。時代は古生代(?)としておく。

II・4 火山性堆積物

盆地をかこむ山地に最も広く分布するもので、火山活動がはげしかったことが推定される。

II・4・1 浮石質火山灰 As (市野層)

西北部の市野付近に分布し、主として石英安山岩質の浮石質火山灰・同質火山砂

からなり、その固結度は低い。

II・4・2 石英安山岩質凝灰岩 Dtr

西北部の仏沢・南部の尾岐付近のものを Dtr(1)、東部の背中灸山・南西部の烏帽子岳付近のものを Dtr(2) とした。Dtr(1) は和泉層の底部を構成し、その基底をもって藤峠層と区別される。これらは熔結凝灰岩となる所もある。盆地の CDtr 層の下位にも発達する (A-A' 断面図参照)。

II・4・3 安山岩質凝灰角礫岩 Tb (明神ヶ岳層)

西部の明神ヶ岳および南部の会津高田町東尾岐付近に分布し、主として暗灰色～灰色の安山岩質凝灰角礫岩からなるが、安山岩 (Ab(2)) の熔岩、灰白色凝灰岩 (Tr) などをはさむ、礫も熔岩も輝石安山岩である。

II・4・4 灰白色凝灰岩 Tr (戸中層・高川層)

西北部・南部・東南部の各地に分布し、主として灰白色粗粒凝灰岩・角礫岩質凝灰岩・火山礫岩・同岩質砂岩等からなるが、淡緑色斑点状の砂岩・頁岩・流紋岩等をはさむ。

II・4・5 緑色凝灰岩 GTr (荻野層・面川層・上三寄層・上田層)

盆地をかこむ山地に最も広く分布し、主として淡緑色凝灰岩・同砂質凝灰岩等からなり、多くの流紋岩をはさむ。

II・4・6 緑色凝灰角礫岩 GTb (關川層)

会津若松市大戸町關川中流部、同市東山温泉付近、同市一箕町不動沢川上流部、陸前高田町宮川上流部等に分布し、主として晴緑色凝灰角礫岩・凝灰岩・砂質凝灰岩等からなり、なお安山岩 (Ab(1)) の熔岩をはさむ。

II・5 火成岩

II・5・1 火山岩

II・5・1・1 安山岩質岩石 Ab

Ab(1) GTb にはさまれる普通輝石・紫蘇輝石安山岩

Ab(2) 西部の明神ヶ岳安山岩 (輝石安山岩)

Ab(3) 貫入岩体

Ab(4) 西接の宮下図葉に分布する第四紀の博士山安山岩（本図葉の西端に1部分布）

II・5・1・2 流紋岩質岩石 Ry

Ry(1) 各層の間に熔岩としてはさまれる斜長流紋岩

Ry(2) 各岩層に貫入する流紋岩

Ry(3) 会津高田町東尾岐付近に分するもので、前2者より後期の噴出岩で紫蘇輝石黒雲母流紋岩

II・5・1・3 石英安山岩 Dc（笹山石英安山岩）

東部・南部の各地に貫入岩として分布する。

II・5・2 深成岩

II・5・2・1 花崗岩質岩石 Gr

東南部の閤川中流部，西南部の宮川上流部等に分布し，古生層(?)を貫き，新第三紀層に不整合におおわれるものである。

II・6 地質構造

本図葉は会津盆地の南半部および盆地を東・南・西側からかこむ山地からなるが，盆地の表層部は沖積層，山地は洪積世以前の岩層から構成される。山地の東南部および西南部には第三紀層の基盤を構成する古生層(?)・花崗岩が露出している。山地を構成する第三紀層・洪積層の多くは盆地側に向かって傾斜しており，大きな半盆状構造を呈する。

盆地の東縁部・西縁部には NNE~SSW 方向に走る断層が沖積層の下に推定されるが，なお西縁の丘陵地の東麓にそって盆地側に地層が急傾斜する NNE~SSW 方向の撓曲帯が認められる。山地部では東縁の断層の南方延長の東側に，また同様に西縁の断層の南方延長の西側に，それぞれ古生層(?)・花崗岩の分布する地域がある。山地部から北方に盆地部を通じて，両断層の間の中央部，すなわち盆地部が地溝状に落ちこみ，構造盆地を形成したものと考えられる。

なお，図葉内各地の断層および褶曲については地質図および地質断面図によることにする。

Ⅲ 応用地質

Ⅲ・1 地下水, その他

盆地の沖積層・洪積層は帯水層として好条件をそなえ、そのため地下水利用は盛んである。会津若松市内の酒造・製氷会社等の工業用・雑用水の水源、また各地の農業用水として浅層地下水（自由地下水）を浅井戸により利用するほか、各家庭の飲雑用水にも利用されている。盆地内において上水道施設が発達しないのは、浅井戸による地下水利用が容易であるためである。なお本郷町・会津高田町・北会津村地内の各所に自然の湧泉が多数存在し、農業用水等に利用されているが、湧泉の分布は上位・中位扇状地、砂礫堆等と関連するところが多い。

会津若松市の上水道の水源には猪苗代湖の水を利用するほか、本図葉内の東山温泉の南の蛇沢に水源池を設け、これを浄水して配水する。また同市芦ノ牧温泉一帯の飲雑用水は大川から揚水し、簡易水道施設により配水する。

また深井戸により深層地下水（被圧地下水）を農業用水、工業用水、消雪用水、雑用水に利用するところも多いが、これらの位置・作井柱状図は図示してある。なお、作井の状況は、第1表に記したが、地質断面図（A-A'）に示したように、殊に洪積層の CDtr, Csm d は帯水層として重要である。

会津若松市水道課の水質分析資料（昭和47年4月）によれば、猪苗代湖左岸取入口の源水は pH 6.4、東山蛇沢の源水は pH 6.7で、また芦ノ牧温泉の大戸町水道の大川の源水は pH 6.6 である。また東北農政局の資料⁽¹⁷⁾によれば各深井戸の水は pH 6.8～7.0であるが、帯水層から取得する水は地層の状況により上水道の水質基準より鉄分がやや多い部分がある。

第1表 深層地下水利用概況 (17・18)

No.	位 置	用途	作井年	地盤高度 (m)	井戸の深 度 (m)	ストレー ナー (m)	口 径 (mm)	自然水位 (m)	揚水水位 (m)	揚水量 (m^3 /日)	水温 ($^{\circ}C$)	備 考
①	北 津 村 東 麻 生	農	S 39	209	100	42	350×50 m 300×50 m	2.45	18.00	5,760	13	
②	同 村 相 原	農	S 39	210	150	35	150	6.15	15.40	660	13	調 査 (300 m)
③	同 村 古 館	農	S 43	217	142.5	66.5	200	5.15	45.50	3,500	—	
④	同 村 麻 島	農	S 40	213	100	33	150	0.52	2.19	484	—	調 査 (140 m)
⑤	高 田 町 御 田 (駅西方)	農	S 40	220	90	33	150	8.60	36.10	306	13.5	調 査 (120 m)
⑥	新 米 村 鶴 沢	農	S 35	215	120	56	400	6.00	22.50	5,700	17	
⑦	高 八 町 田 沢	農	S 40	250	120	58	300	—	—	—	—	
⑧	高 福 町 田 泉 寺	農	S 39	250	120	60.5	300	10.70	49.20	2,270	—	
⑨	高 上 町 田 原	農	S 38	250	170	71.5	350×50 m 300×120 m	14.30	46.00	1,800	—	
(2)	若 松 市 栄 町 大 善 デパート	雑	S 36	218	50	16.5	200	1.50	13.38	546	—	
(5)	若 松 市 天 寧 寺 造 花 春 酒	工, 雑	S 37	235	58	24	200	2.47	34.50	441	15	

Ⅲ・2 温 泉

東部に東山温泉，東南部に芦ノ牧温泉があるが，温泉の概況は第2表のようである。これらの温泉は何れも第三紀の火成活動および地質構造に関連がある。

第2表 温泉の概況⁽²⁾

温泉地名	源泉数	湧出量 (ℓ/min)	温 度 (°C)	pH	泉 質	利 用 施設数	湧出状況	備 考
東 山	34	1672.2	31~57.5	6.9~7.8	含芒硝弱食塩泉 含食塩石膏泉	42	自然湧出 動力揚湯	昭38.10 現 在
芦ノ牧	7	462	45~62	6.8~7.4	含食塩石膏泉	20	動力揚湯	同 上

Ⅲ・3 鉱 床

Ⅲ・3・1 石膏鉱床 (Gy)

会津若松市下雨屋付近においては朝日鉱山により石膏鉱床が開発されているが，黒鉱々床型鉱床で，主として緑色凝灰岩の破碎帯に発達する塊状鉱体である。

Ⅲ・3・2 陶土 (Cl)

本郷町柳窪，陸前高田市上胄西方において陶土が採掘されている。原石は何れも流紋岩が深く風化したものである。採掘された陶土は本郷町の工場において，多くは碓子，電気熔接用資材等に加工されるが，また宗像焼というような一般家庭用の陶器にも製造市販される。

Ⅲ・3・3 亜炭 (Lg)

西北部の Csm_d (和泉層)，Csm_r (藤峠層) には亜炭を賦存し，中山付近において盛んに採掘された時もあったが，現在すべて廃山である。

Ⅲ・3・4 砂利

大川の河床部および盆地内部の sgm⁽²⁾ の砂礫堆の部分で，土建用の砂利採取が盛んである。国鉄只見線の大川の鉄橋より下流の大川の河床では河川管理の関係上，砂利採取が禁止されている。

Ⅲ・４ 地すべりおよび崩壊地

火山性堆積物のうち As, Dtr の分布する地域，火山岩のうち Ry の地域，固結堆積物のうち Ms 等，また盆地西部の半固結堆積物の分布地域には，地すべり，山崩れが発生した個所が多いが，これらは岩質に由来することが多い。従って砂防ダムが各所に建設され，溪流工・山腹工・植栽などによる治山工事が年次的に計画施工されている。

Ⅲ・５ ダム

Ⅲ・５・１ 防災ダム

会津高田町を中心とし，東西12km，南北30kmにわたる鶴沼川沿岸の耕地は，河川の表流水を主要灌漑用に利用していたが，洪水時に破堤氾濫することが多く，耕地はもちろんのこと，公共施設，人家などに甚大な被害を与えていた。福島県はこの災害防止のため，宮川，逆瀬川，氷玉川の各上流部に防災ダムを建設した（第3表）⁽⁵⁾。

第3表 防災ダムの概要⁽⁵⁾

名称	完工年	位置	型式	堤高(m)	堤長(m)	貯水量(万 m^3)	地質
宮川ダム	S 37	宮川上流	複合ダム (重力式コンクリートダムとアースダム)	42.00	288.00	232	G Tb. 凝灰角礫岩左岸アース部は段丘礫層
二岐ダム	S 44	逆瀬川上流	均一式アースダム	30.00	123.00	84	C sm d. 砂岩・泥岩の互層に垂炭をはさむ
栃沢ダム	S 45	氷玉川上流	中心コア型アースダム	23.70	150.00	37	G Tr. 緑色凝灰岩流紋岩

また東北農政局会津総合開発事務所は宮川ダムの上流，下谷ヶ地地内に新宮川ダムを計画している。新宮川ダムは堤高 82.00 m，堤長 280 m のロックフィルダムで，貯水量は約 2,000 m^3 である。

Ⅲ・５・２ 多目的ダム

Ⅲ・5・2・1 大川ダム

北陸地方建設局阿賀川工事事務所は大川の上流（右岸は会津若松市大戸町，左岸は南会津郡下郷町）に多目的ダムを建設中で，昭和54年完成の予定である⁽¹⁰⁾。ダムは重力式コンクリートダムで，堤高78.00 m（堤頂高393.00 m），堤長252.00 m，貯水量は約 5,600万 m^3 である。

ダムサイトの地質は砂岩・粘板岩を主とする古生層（？）であるが，これに花崗岩，安山岩，流紋岩が貫入しており，ホルンフェルス化している。また河床に平行し，堤体に直交する南北方向の断層のほか，多くの小断層が走っているため地質は複雑である。

Ⅲ・5・2・2 東山ダム

福島県東山ダム建設事業所は，東山温泉の南方に多目的ダムを建設中で昭和53年完成の予定である。ダムは重力式コンクリートダムで，堤高69.00 m（堤頂高409.00 m），堤長248 mで，貯水量は約 1,250万 m^3 である。地質は緑色凝灰岩・角礫凝灰岩で，右岸に石英安山岩が貫入している。

文 献

1. 地質調査所温泉グループ，1965，福島県会津東山温泉調査報告．福島県の温泉調査報告，no. 2，福島県厚生部薬務課．
2. 深谷純一，1964，福島県の温泉の概要について．温泉工学会誌，v.2，no.1．
3. 福島県，1962，福島県20万分の1地質図並に説明書．
4. 福島県厚生部，1967，福島県の温泉．
5. 福島県鶴沼川防災ダム建設事務所，1970，福島県鶴沼川沿岸防災事業概要書．
6. 福島県農地林務部，1973，土地分類基本調査（国土調査），5万分の1「猪苗代湖」，表層地質図（小貫義男担当）．
7. 平山光衛，1968，会津盆地地形分類図説明書．東北農政局計画部．
8. 北条敬太郎，1921，福島県大沼郡本郷本山陶土調査報文．工業原料鉱物調査報告，no. 1．

9. ————, ————, 福島県大沼郡尾岐村陶土調査報文. 同上, 同上.
10. 北陸地方建設局阿賀川工事事務所, 1972, 大川ダム計画概要.
11. 経済企画庁総合開発局, 1972, 土地分類図(福島県), 20万分の1表層地質図
(鈴木敬治・真鍋健一調査作図).
12. 木野義人, 1952, 会津盆地南部の地質. 東北大学地質卒論.
13. 北村 信・他5名, 1968, 宮下地域の地質(福島県地質調査報告, 5万分の1
「宮下」). 福島県企画開発部.
14. 野村 祐, 1963, 福島県南会津郡下郷町湯野上附近の地質. 東北大学地質卒
論.
15. 三本杉巳代治, 1955, 朝日鉾山の地質構造と電気探査の新解釈. 鉾山地質,
v. 5, no.15.
16. 鈴木敬治, 1964, 福島県5万分の1地質図幅説明書, 「会津地方」. 福島県企画
開発部.
17. 東北農政局計画部, 1965, 農業用地下水調査報告書. 「会津盆地地区」.
18. ————, 1972, 東北管内地下水取水施設台帳. 「岩手・宮城・福島県編」.
(理学博士 小貫義男)

Ⅲ 土 壤 図

1. 台地，低地地域の土壤

(1) 黒ボク土壤

主として盆地南部と南西部の砂礫台地（台地，扇状地）に分布し，一部大川沿岸の段丘にある。

馬渡統は黒ボク土壤で盆地南部の扇状地や台地に分布する。

大登統（粗粒黒ボク土壤），若林統（多湿黒ボク土壤）は盆地西縁台地に分布する。大登統は下層が砂礫層又は礫を含む砂層である。若林統にも下層砂礫層の出現するところがある。

駒谷統は淡色黒ボク土壤で台地や麓層地に分布する。

生産性は一般に中～やや低い。

(2) 黄色土壤

堀口統で，盆地南西部の台地に分布するが面積は小さい。

(3) 褐色低地土壤

低地および扇状地に分布する。

蟹川統は主として中粒質であるが，真宮統は粗粒質で，表土は主として壤質土であるが，第2層では砂質土多く，第3層は砂礫層の出現が多い。

(4) 灰色低地土壤

低地および扇状地に広く分布する水田土壤で，大川，鶴沼川，宮川，濁川の沿岸は主として粗粒質の関本統であり，その分布は広い。河川からはなれて中粒質の門田統，細粒質の永井野統，今和泉統が分布する。

生産性は関本統はやや低いが，門田統，永井野統，今和泉統とも概して高い。

(5) グライ土壤

細粒質の島統と中粒質の北村統があるが分布面積は小さい。

(6) 低位泥炭土壤

舟津統で、低地や段丘凹地に分布するが面積は小さい。

(7) 黒泥土壌

荒久田統で、盆地東部の低地と南部の低地、扇状地に分布する。

土性は細粒質多く、下層はグライ層になっているところが多い。

(福島県農業試験場 鈴木平喜)

2. 丘陵地、山地地域の土壌

(1) 黒ボク土壌

丘陵地や山地の比較的平坦な尾根や低山地の凹部に見られる。いずれも火山灰を母材としている。

(イ) 東山統

本調査地の東部背中炎山地周辺の傾斜のゆるい山腹や台地状の平坦な尾根に広く分布する。黒色のA層は一般に浅く、場所によっては褐色森林土への移行型もみられる。ほとんどA層に石礫を含まず、一般に堅密な土壌が多い。

(ロ) 宮下統

山地の凹地に分布する土壌で会津盆地の西部に多い。凹面に分布する土壌故に場所によっては石礫に富み、割合やわらかく、A層の深さはまちまちである。

(2) 乾性褐色森林土壌

丘陵地、山地の尾根、凸部に見られる土壌で褐色森林土のB₁、B₂、B₀型土壌に相当する。一般に土層は浅く、淡色で構造が良く発達している。コナラ、ミズナラ、ツツジ、クリ、アカマツ等の天然林が多く、林地の生産性は低い。

(イ) 赤地1統

浮石質凝灰岩を主とする残積土で背中炎山系に広く分布し、一部会津坂下町方面にもみられる。一般に土壌は褐色～黄褐色の色調を帯び粘質で、堆積状

態も密なものが多い。

(ロ) 本郷1統

砂岩、泥岩を主とする残積土で、本郷町、会津高田町、の丘陵地にみられる。土壌はにぶい黄褐、明黄褐の色調を帯び、表層は極めて浅く、堅密で場所によっては未熟土となっている。

(ハ) 尾岐1統

緑色凝灰岩、溶結凝灰岩を主たる母材とし、一部に安山岩質岩石のみられる地帯である。土壌は基層はにぶい黄褐色であるが、表層は明黄褐を帯び表層は一般に浅い。

(ニ) 芦ノ牧1統

会津若松市の大戸岳周辺にみられる古生層（粘板岩、砂岩）を主体とする土壌で表層は割合深く、場所によっては暗色土の形態がみられる土壌である。

(ホ) 船鼻1統

赤津1統と同じく浮石質凝灰岩を主体とする土壌で、本図葉の南部にみられる。土壌は褐色より橙色を帯びるが一般に堅密な土壌が多い。

(3) 褐色森林土壌

丘陵地、山地の斜面および山脚部にみられ、褐色森林土壌のB_{nc}(d)型、B_n型に相当する土壌である。

(イ) 赤津2統

赤津1統と地域、母材を同じくする土壌である。山腹、山脚に分布し、褐色～黄褐の色調を帯び、腐植の入り具合も一統に比べはるかに深い。

(ロ) 本郷2統

本郷1統と地域、母材を同じくする残積性土壌である。丘陵地形の山腹、山脚に分布するが、腐植の入り具合は他の統に比べ一般に浅く色調も淡い。

(ハ) 芦ノ牧2統

芦ノ牧1統と地域、母材を同じくする削行性、崩積性土壌である。この地

域は起伏・傾斜ともに大きく、壮年期の地形を呈しているため、土壌は表層侵蝕の影響を受けている所もあり、下層は礫質土壌となっており、腐植も割合浸透している。傾斜のゆるやかな所は表層に団粒状構造がみられ適潤で肥決な土壌が多い。

(二) 尾岐 2 統

尾岐 1 統と地域、母材を同じくする土壌である。緑色凝灰岩を母材とする土壌は粘質で色もやや淡い傾向があり、土壌の性質は地形によって大きく左右される傾向がある。安山岩質地域の土壌は砂土質～壤土質で腐植も一般に深くまで入り、肥決な土壌が多い。

(三) 船鼻 2 統

浮石質凝灰岩を主とする土壌で、山腹部、山脚部に分布する。腐植の入り具合は一統に比べ深いのが堅密で粘質なものが多い。山腹部と山脚部では土壌の肥沃度に差がみられる。

(4) 湿性褐色森林土

山地の山腹下部凹面、山脚部にみられる褐色森林土の B_E、B_Fに相当する土壌である。本調査地では次の三統がみられる。

(イ) 赤津 3 統

赤津 1、2 統と地域母材を同じくする土壌で山脚部に分布する。火山灰の影響を受けており、場所によっては黒色土に近いものもある。

(ロ) 芦ノ牧 3 統

芦ノ牧 1・2 統と地域母材を同じくする土壌で山脚部、山腹部に崩積土となっており、一般に礫に富み腐植の多い生産力の高い土壌である。

(ハ) 尾岐 3 統

尾岐 1、2 統と地域母材を同じくする土壌で山脚部に多く分布する。本地域でも安山岩質岩石を母材とする地帯に多くみられる。A 層は深く腐植に富むがやや粘質の土壌が多い。

Ⅳ 傾斜区分図

7段階に区分すると、本図葉の南半分に、傾斜30度以上40度未満および傾斜40度以上の急傾斜の地域が集中的にあらわれる。北半分の東部の山地と西部の山地では傾斜20度以上30度未満の地域が卓越する。東部の脊中灸山山地 Id の山頂部は傾斜8度以上15度未満の平坦さを示し、脊中灸山（流紋岩流）台地 If にあたる。

盆地床の大部分が傾斜3度未満であり、東部の吹矢山断層崖下の扇状地上位面と西部の明神ヶ嶽断層崖下の複合扇状地上位面とが傾斜3度以上8度未満を示すのみである。盆地床西南部の宮川扇状地上位面は緩傾斜で3度未満である。

大川、東尾岐川、宮川に発達する段丘面は、段丘崖を除けば、大部分が3度未満の傾斜である。

図葉中央部よりやや南に、東西に帯状に分布する地之り、山崩れ地形面には8度以上15度未満の傾斜が多いが、西の明神ヶ嶽山地の地之り・山崩れ地形面ではやや傾斜が急で、15度以上20度未満の傾斜を示している。

（宮城教育大学教授 田辺健一）

V 水系・谷密度図

水系の分布は比較的単純で、南北方向を基調とし、盆地床に入ってから大きく方向を変えるものがある。湯川、大川、宮川が主要水系で、いずれも貫入曲流の形式をとっているが、曲流の幅は狭い。支流の発達は少なく、本流に鋭角に合流するものが多い。例外的に樹枝状の配置を示すのが、大川中流の闇川のみである。

大川および宮川、鶴沼川は盆地床に入る辺りから人工堤防によって流路が固定され、多くの灌漑用水路が扇頂部から分水される。扇状地の間にはさまれた低湿地（若松の南、本郷の南西、会津高田の北部）では排水路が掘られ、自然状態の湿地は消失している。大川左岸の圃場整備事業による用排水路の建設により、大川の旧乱流路を利用した用水路は殆ど見られない。

盆地南部の小起伏の山地の小さい谷には、小溜池が多い。盆地西縁の複合扇状地上部にも小溜池が多い。

灌漑用のダムは氷玉川、宮川、逆瀬川の中流部に作られているが、湯川、大川の中流部と宮川の上流部にも建設計画がある。

谷密度は、中小起伏の山地に一般的な数値を示していて、地域的な特性を見出すことは困難である。

（宮城教育大学教授 田辺健一）

Ⅵ 開発規制図

国有林は図葉の東部と西南部及び中央部に位置している。保安林は水源涵養保安林が南部の中央と東西にわたって大きく分布している外 雪崩防止保安林が二重平、菅沼等の1部にみられ、土砂流出防備保安林は菅沼、芦の牧、上小塩、栢沢、宮川等の左岸山ろくに、風致保安林は東山にそれぞれみられる。

また、濁川、市川、湯川、松倉川等の沿岸は砂防指定地として規制されている。

県立公園は、大川ライン東側の山ろくにそって第1種、第2種、第3種特別地区として指定されている。

遺跡としては、牧沢、餓鬼免、狐石、正法寺、梨の不平・鶴ヶ城三ノ丸、芦の牧、黒森等、また、狐塚、十五壇、五つ壇、供養壇等の古墳が数多く散布しており、また、弘安寺弁天堂（旧本堂厨子）、大刀、銘、国宗の外数点の重要文化財及び天然記念物の蓋沼の浮島、史跡として若松城跡、会津松平庭園等や、刀、無銘、伝助真等が重要文化財として指定されている。

また、図葉の北部の羽黒山一帯は鳥獣保護区になっている。

（福島県農地管理課 渡辺三郎）

Ⅶ 土地利用現況図

1 耕地

(1) 概要

本図葉は会津盆地の南半部が約4分の1であり、他の4分の3は会津山地に属する山地および丘陵地で占められている。従って、土地利用現況も、基本的には、それらの平地・山地の分布に応じて配置している。また会津盆地は盆地床が比較的平坦で、古くから灌漑用水路が発達しているから、広い水田が連続しており、従って水稻10a当りの収量も500kg以上であり、県内最高の米作地域となっている。ただ、盆地の中央部、大川沿岸には、砂質、緩傾斜の扇状地が発達しているから、その扇状地面は、まくわうり、西瓜等を主とする野菜産地となっている。また、盆地の東部と西南部の山腹斜面、および盆地床の平地地には、会津みしらず柿が多く栽培されている。

一方、盆地周辺山地内には、各河川沿岸の谷底平野や段丘面上はもちろん、山地内の緩斜面にも所々に集落があり、それらの付近には、水田や普通畑が、線状にまたは散在して、分布している。

(2) 田

本図葉内の耕地のうち、その過半は田であり、主として低く（海拔200m前後）平坦な会津盆地の盆地床に広い面積を持って分布している。特に大川右岸の旧門田村や大川左岸の会津本郷町南西部および新鶴村から会津高田町の北部にかけては一面の耕地整理された広い水田地域となっている。

また南部の山地を侵蝕している各河川の沿岸には、盆地床から断続する水田が、谷底平野や段丘面上に分布しており、山地内の緩斜面にも部分的に小塊状の水田が分布する。例えば、東部では大巢子、黒森附近、西部では菅沼、大岩附近である。

(3) 普通畑

普通畑の分布する地域は、一つは大川扇状地面、二つは会津盆地の周辺斜面、第三には大川および宮川上流の谷底平野や段丘面、そして山地内の緩斜面や急斜面である。

大川扇状地面は、砂質微傾斜であり、会津若松市街地に近接しているので、会津地方における主要野菜産地となっており、まくわうり、西瓜、その他の野菜類の栽培が盛んである。しかし最近は大田化が進み、特に北部の荒館地区では顕著である。

またこの地方の普通畑には、たばこ、ホップ等の作付が多く、旧門田村では薬用人蔘の栽培も見られる。

山地内の小塊状の普通畑には、農家の自給用作物が主である。

(4) 桑園

桑園は会津盆地の西南部、会津高田町周辺に多く、盆地床の平坦面や古い扇状地面、山麓緩斜面等に分布している。

(5) 果樹園

果樹園は、会津若松市街地の南部、黒岩附近の山腹斜面、山麓緩斜面に集中しており、その他は盆地床内に小面積散在している。主として柿が栽培されており、会津みしらず柿は県内はもちろん、東京方面に多く出荷されている。農家の庭先にある柿の木を含めると、土地利用図に示された果樹園よりも広い栽培面積がある筈である。

(6) 都市および村落

会津地方の中心地である会津若松の市街地の大部分が、図葉の東北部に在り、商店街を中心として、住宅地、学校、工場、公園がとりまき、また旧城下町であったために寺院が多い。盆地の南部には、会津本郷町と会津高田町の市街地があり、それらの中心部には商店街が形成されている。

会津盆地内には集村形態の農業集落が密に散在し、山地内の河谷や、山腹緩斜面にも村落が分布する。

(福島大学教授 大沢貞一郎)

2 林 地

本図葉の耕地面積は総面積の約60%をしめている。その分布を大別すると北半は中起伏山地帯，南部は大起伏山地及び中起伏山地となっている。

林野は民有林が約80%，国有林が約20%であり，大半が広葉樹である。また，樹種は斜葉樹がスギ，アカマツ，カラマツ等，広葉樹がコナラ，ミズナラ，ブナ等が主なるものである。

保安林は南部に水源涵養保安林が広く分布しているほか，雪崩防止保安林，土砂流出防備保安林及び東山地域には風致保安林等があり，公益的機能を果している。

また，この地域は大規模林業圏開発プロジェクトとして林道の整備開発が計画されている。

3 草 地

本図葉の北部の会津高田町，本郷町と南東の会津若松市大戸の1部には団体及び県草草地改良事業が昭和38年頃から行なわれたが，現在，草地造成が完了し採草放牧地として利用されている。

(福島県農地管理課 渡辺三郎)

1974年2月 印刷発行

会津開発地域
土地分類基本調査

若 松

編集発行 福島県農地林務部農地管理課
福島市杉妻町2-16

印刷 株式会社 大盛堂印刷所
福島市北町1-21